

# 修行すれば「人生は楽しい！」になります。 宝彩有菜

人生は、誰の人生も、もともと楽しいものです。

生まれてから死ぬまで、何十年ですが、しかし、とても楽しい時間です。

でも、マインドが働けば、マインドはすぐに心配事を見つけてきたり、不足なことを見つけてきたりします。それは、マインドが任務に忠実に働いてくれているので、とてもありがたいことなのですが、マインドは働き者ですから、すぐにいつも行き過ぎてしまいます。

そして、その結果、人生は辛い、人生は苦しい、人生は心配だらけだ、という感想になってしまいます。

それは、行き過ぎです。間違いです。

本来、人生は、とても楽しいものです。楽しく、とても愉快で、とても面白いものです。

感動的で、心温まるものです。ああ、生きていて良かった、うれしいと思えるものです。

夜空を、見上げてみてください。無限の宇宙に、無限の星が瞬いています。

何十億年の彼方の星から、今、ここに、光が届いています。

計り知れない大きさです。時間の長さです。

でも、いったい誰のために、そんな大掛かりな、巨大な舞台設定がしてあるのでしょうか？

また、地球の上には、何十億人の人が、懸命に今、一緒に生きています。

近くの人でも遠くの人でも、地球の裏側の人も。

でも、いったい、誰のために、みんなが生きていてくれるのだと思いますか？

もし、今、自分がこの地球に居なかったとしたら、宇宙の星々も、何十億人の人々も、すべてみんな自分にとっては、たぶん意味を失います。自分が居ないからです。自分が居ないのに星が輝いても無意味です。

で、あるなら、そのような計り知れない巨大な恩恵や、はかりしれない多くの人々が存在していることの意味とは、自分が生きているからこそ、その意味があるわけです。

では、なぜ、そのような大がかりな舞台設定になっているのでしょうか。

夜空にそんなに沢山の星は要らないかもしれません。満天の夜空にしてくれと頼んだ覚えもありません。

地球の裏側の人も居ても居なくても良いかもしれません。一生会わないかもしれません。

でも、そうなってません。贅沢な、これ以上ない贅沢な配置や設定になっています。でもなぜ？

それは、私がふと夜空を見上げて、「きれいだな」と、少しだけ感動するかもしれない。たったそれだけのために膨大な宇宙を舞台設定してある、としたら？

同じように、地球の上に60億もの人がいる、としたら？

なんという贅沢でしょう。なんという恩恵でしょう。ありがたくて、かたじけなくて、涙が出そうになります。

そうです。私たちは、この大宇宙に、奇跡のように存在している。守られて、守られて、多くの人々に支えられて、自分が居るわけです。そして、自分が居るから、みんなが存在してくれている意味が、自分にあるわけです。

人生は、というような、舞台設定になっています。ですから、生きているというより、ありがたく人生をおくらせていただいているわけです。

であるなら、この自分の限られた人生を、目一杯、楽しく愉快に生き抜かなくては、申し訳ないではないですか。命の限り、楽しく生きることが、私たちに課せられた義務ですし、それこそが、奇跡のようにここに私たちが存在していることへの、最大の謝意、恩返しになるのだと思います。それ以外に恩返しのしようがありません。不満を持って生きるとは、恩知らず、恥知らずだと言えます。

と、大袈裟に考えることは、あははは、全然ありません。考え過ぎると疲れてしまいます。普通に、もともと、人生は楽しいものですし、そう感じつつ生きることが肝要です。それが自然で、それで当然です。

そして、ありがたいことにですね、ここがポイントですが、修行すれば、すぐに、そうなれます。

修行すれば「人生は楽しい！」が真に分かります。